

事例発表（前半5校）を通して

～発表校への質問や要望～
～継続校や新規校に向けての示唆～

甲南女子大学教授

村川 雅弘

はじめに

- ①研究開発学校制度は45年ほどの歴史がある。企画評価委員として約25年、20校程度の運営指導委員を務める。
- ②本制度は、生活科や総合的な学習の時間、外国語科、総合学科等の創設に寄与してきた。
- ③今は厳しい時代。現行学習指導要領の範囲内でかなりの実践が可能である。（申請時は学習指導要領改訂前、3年間はコロナ禍）
- ④開発した取組が現行学習指導要領とどう違うのか、何をどう改善しているのかを示す必要がある。（客観性・妥当性【評価？】、そして、意味づけ・価値付け【運営指導委員の役割！？】）
- ⑤継続校・新規校に課題をつなぐ。研究開発のバトンを渡す。

東村山市立久米川東小学校①

- ①本校が「求める力」と現行学習指導要領の「育成を目指す資質・能力の3つの柱」との異同を。
- ②「求める力」の育成のための「カリキュラム開発・授業改善」の考え方・取り組み方と現行学習指導要領の中で可能な「カリキュラム開発・授業改善」との異同を明確に。
→外国語活動・外国語科と総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学習でも実施可能ではないか。

**先行研究と現行学習指導要領の吟味が必要！
授業の工夫・改善に止まってないかの検討を！**

東村山市立久米川東小学校②

③研究となると、つい新規な言葉・一般的に使われていない言葉を使いがち。（◆「次元」や「価値」も）

例えば、CLIL（内容言語統合型学習）

→現行学習指導要領で使われている言葉で説明する努力が、研究成果を伝え、その一般化を図るために必要。

→研究の概要のCLILの例を、具体的な教科・単元・教材を用いて、比較して説明するとよい。

④「国際力」の評価→進学先の中学校での他校の卒業生との比較調査を。

研究成果を分りやすく伝える努力を！

福井大学教育学部附属義務教育学校

- ①「社会創生プロジェクト」と総合的な学習の時間、各教科等の横断的学習との異同について明確に。多様な人とのかかわりはこれまでも一般的に行われてきた。
- ②「PBLのプロセス」と「総合的な学習の時間の探究の4つのプロセス＋振り返り」との異同を明確に。
- ③資質・能力の評価の内容や方法に関しては、研究開発学校の共通の課題である。他校の取組みを参考にすると共に、運営指導委員の助言を仰ぎたい。

学習指導要領改訂に寄与するための情報提供を！

京都教育大学附属京都小中学校①

- ①「4－3－2制」の根拠となるデータを提示していることは評価。
- ②「主体的な学びを捉える方法」も有効な評価方法。
 - 何を参考に作成し、どう分析しているか？
 - 引用や出典を明記する習慣を。
 - 学年が上がるにつれて生徒の数値が下がっているが、**教員からみた手ごたえ・評価はどうか？生徒の判断（メタ認知）の理由はどうか？総合的に考察したい。**

客観性や妥当性を検討するためのデータ収集！

京都教育大学附属京都小中学校②

- ③現行学習指導要領が求めている資質・能力やカリキュラム・マネジメントの考え方と本研究開発との異同を明確に。
→「考えるプロセス」の具体事例が欲しい。
- ④「小学校技術科（情報分野）のカリキュラム・マネジメントの視点」や「理科におけるカリキュラムの構造図」等は「各教科等のカリキュラム・マネジメント」として提案性が高いが、示し方に一貫性がない。書式や観点、手続き等の統一を行えないか。

自校の取組のよさを表すための一工夫を！

広島大学附属三原中学校外 2 校①

- ①本校がめざす子ども像と現行学習指導要領が求めている資質・能力の異同について明確に。
- ②新領域「光輝（かがやき）」と、現行学習指導要領の中で実施可能な総合的な学習の時間を核とした教科横断的な学習（特に、道徳と特活）との異同について明確に。
- ③「3つの次元」と「資質・能力の3つの柱」との異同について明確に。「次元」という言葉の適切性は？
- ④「包摂」という言葉の適切性は？「融合」との違いは？

現行学習指導要領の中で何が可能かの吟味を！

広島大学附属三原中学校外 2 校②

- ⑤「子どもの言葉で考えるルーブリック」のBCを考えさせることの意義は。
- ⑥「学年区分」ごとのメタ学習の促進のための手立て（「振り返りの充実」「対話の促進」「ルーブリックを活用した自己評価」等）は、全ての学年に共通して必要なものと考えらるが。
- ⑦多様なことに取組み、研究の中心や成果が見えづらい。

研究志向により学びの本質を見落とさない！

研究のレバレッジポイントを明確に！

山口大学附属山口小学校①

①研究組織及びその役割と関連が明確。

②8つの力を「価値」としているが、「汎用的スキル」との関係はどうなっているのか。「資質・能力」とどう違うのか？「価値」という言葉の適切性は？

→現行学習指導要領は、育成を目指す資質・能力を踏まえた上で、教科等ごとに目標や内容を示しているが、「**価値**」を基に**学習指導要領の記述**の試みを。

学習指導要領改訂に寄与できる研究と提案を！

山口大学附属山口小学校②

- ④「教科融合型カリキュラム」と現行学習指導要領がカリキュラム・マネジメントの側面1で提唱している「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」との異同を明確に示して欲しい。→「教科融合型カリキュラム」の優位性を。
- ⑤「創る科」は26～35時数だが、教科として成立するのかを検討して欲しい。

現行学習指導要領に対する優位性を明確に！
上手くいかなかったことやネガティブデータも！